

各 位

令和元年 9 月 1 5 日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



野草園に咲く秋の花の蜜を吸う蝶たち

- ①フジバカマ（キク科）とアサギマダラ
- ②シラヤマギク（キク科）とクジャクチョウ
- ③オケラ（キク科）とクモガタヒヨウモンチョウ
- ④サラシナショウマ（キンポウゲ科）とアカタテハ（下側）

野草園内の植物には、さまざまな種類の昆虫がやってきます。その中でも蝶の仲間はとても人気があり、美しい花と蝶の姿を撮影するためにたくさんのカメラマンが訪れます。

植物は、花粉を雌しべに運んでもらうために、花の色や形を工夫し昆虫にアピールしています。良くこんな工夫をしているものだと驚かされることがたくさんあります。植物の不思議な世界に触れるのも、また楽しいひと時となります。

9月後半、多いときは200頭以上の「渡り蝶 アサギマダラ」が、「七草の庭」のフジバカマ周辺を乱舞します。また、サラシナショウマには、一つの花序に何頭もの蝶が並んでとまったりします

優しげに咲く秋の花と美しい蝶の姿を見にいらっしやいませんか。

9月中旬から10月上旬のイベント

◆【野草園第26回写真コンテスト作品募集】 9/1(日)～9/20(金)

詳しくは野草園のホームページをご覧ください。

◆【東北南3県ポタニカルアート作品展】

- 日時 9/1(日)～9/23(月・祝) 9:00～16:30 ※9/1は13:00から、9/23は15:00まで
- 場所 自然学習センター
- 内容 ポタニカルアート愛好者の作品約250点を展示、杉崎文子氏が描いた世界に一本の貴重なミヤマカスミザクラの作品も展示 ※9/15展示入替あり

◆◆◆◆◆◆◆◆「秋の野草園祭り」9/14(土)～16(月・祝)◆◆◆◆◆◆◆◆

期間中のイベントの参加費はすべて無料です。(入園料別)

◆【水風船プレゼント】

- 日時 9/14(土)～16(月・祝) 10:00～12:00と13:00～14:00
- 場所 自然学習センター前 (無くなり次第終了)

◆【木の実のオブジェ作り講座】

- 日時 9/14(土) 13:00～15:00
- 場所 自然学習センター ピロティ
- 内容 野草園内の木の実を観察し、木の実を使った動くオブジェを作成
- 講師 野草園職員
- 対象 先着15人
- 申込み 電話で野草園まで TEL 023-634-4120

◆【山形まるごと市】

- 日時 9/15(日)、16(月・祝) 10:30～15:00
- 場所 料金所の脇
- 内容 西蔵王の特産物などを販売。16日には西蔵王のとうもろこしも販売。

◆【乗馬体験】

- 日時 9/16(月・祝) 10:00～12:00、13:00～15:00
- 場所 自然学習センター前 中央広場
- 内容 子供はポニー、大人はサラブレッドに乗って広場のコーナーを一回りします。
それぞれ先着100名(当日9:00～整理券配布) *雨天中止

◆【ミニ新幹線運行】

- 日時 9/16(月・祝) 11:00～12:00、13:00～15:00
- 場所 自然学習センター前 中央広場
- 内容 東北ライブsteamクラブ須貝健二氏により中央広場で連続運行。*雨天中止

◆【65歳以上 無料入園日】9/16(月・祝)

敬老の日の趣旨から65歳以上の方は無料で入園できます。ご家族の方との来園をお待ちしています。



◆【ボタニカルアート体験講座】

- 日 時 9 / 20 (金) 10:00~15:00 (昼食休憩あり)
- 場 所 自然学習センターピロティ
- 講 師 日本ボタニカルアート協会会員 杉崎紀世彦 氏
- 内 容 植物のデッサンと彩色、喫茶コーナーで昼食 (昼食代別) ○持ち物 不要
- 対 象 先着 15 人 ○参加費 入園料込 1,100 円 (高校生以下 800 円)
- 申込み 電話で野草園まで TEL 023-634-4120

◆【薬草と薬膳を楽しむ健康ウォーキング】

- 問 株式会社萬屋薬局 TEL 023-623-1805
- 日 時 9 / 29 (日) 10:00~12:30 ○場 所 野草園内
- 内 容 ウォーキングをしながら薬草等について専門家が解説、
昼食は薬膳おにぎり・山形県産食材を使用した芋煮汁
昼食後希望者に骨密度測定
- 主 催 株式会社萬屋薬局 (共催 山形市野草園)
- 講 師 萬屋薬局 薬剤師、山形済生病院健康増進センターめぐみ 健康運動指導士
野草園 植物案内ボランティア
- 対 象 野外ウォーキングの可能な方 先着 50 人
- 参加費 1,500 円 (入園料、昼食代、保険料等込) ○持ち物等 歩きやすい服装、飲み物
- 申込み 電話で萬屋薬局まで TEL 023-623-1805

◆【ハーフスワッグ教室】

- 日 時 10 / 5 (土) 10:00~12:00
- 場 所 自然学習センター ピロティ
- 講 師 ハーブライフ&ガーデン 佐竹文子 氏
- 内 容 ユーカリなどを使った壁装飾づくり
- 対 象 先着 15 名 ○参加費 入園料込 2,700 円 (高校生以下 2,400 円)
- 申込み 電話で野草園まで TEL 023-634-4120

◆【きのこ汁振舞い】

- 日 時 10 / 5 (土)、6 (日) 11:00~12:00
- 場 所 自然学習センター ピロティ
- 対 象 入園者各日先着 50 人 (当日 9:00~ 整理券配布)
- 費 用 入園料 300 円のみ (高校生以下無料)

◆【山野草の育て方教室】

- 日 時 10 / 8 (火) 10:00~12:00
- 場 所 自然学習センター ピロティ
- 講 師 蔵王園芸店 佐藤祐一 氏 ○内 容 ヤマシャクヤクの株分けと植替え
- 対 象 先着 13 名 ○参加費 入園料込 2,300 円 (高校生以下 2,000 円)
- 申込み 電話で野草園まで TEL 023-634-4120

◆【ガイドウォーキング】

- 日 時 9 / 14 (土)、15 (日)、16 (月:祝)、21 (土)、22 (日)、23 (月:祝)、
28 (土)、29 (日)、10 / 6 (日)
1 回目 10:00~11:00、2 回目 11:00~12:00、3 回目 13:00~14:00、4 回目 14:00~15:00
- 内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策。申し込み不要。入園料のみ 300 円

◆◆◆野草園の9月後半に見られる主な花たち◆◆◆



フジバカマ (キク科)

本州の関東地方以西、四国、九州の土手などに自生する多年草です。奈良時代に中国から渡来したものと考えられています。葉は短い柄があって対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があります。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっています。



シラヤマギク (キク科)

山地の日当たりの良い草地や明るい林縁に生える多年草です。草丈が1～1.5mで、下部の葉は大きく心形で翼のある葉柄を持っています。茎頂に、散房状に花を付けますが、舌状花の数が少ないので花卉が少なく歯抜けのようにも見えます。



オケラ (キク科)

日当たりのよい乾いた草地に生える多年草です。花を囲む苞葉が魚の骨を並べたような形をしています。葉はかたく、縁にこまかな刺状の鋸歯があるのも特徴です。若芽のうちはやわらかく食用にされます。根は胃の薬として使われます。古名のウケラの訛ったものが、名の由来といわれています。



サラシナショウマ (キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草です。茎の先に総状花序を出し、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落ちします。「晒菜升麻」の名の由来は、若葉をゆでて水でさらして食べたことによります。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻であり、解毒・解熱剤などに使用します。



オミナエシ (スイカスラ科)

日当たりのよい山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し裂片は狭くまた尖ります。茎は上部で枝分かかれし、黄色の小さい花を多数つけます。秋の七草として有名な植物です。花が満開になるとその独特なおいで、オミナエシが咲いていることがわかります。



アケボノソウ(リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、茎は直立して枝分かれします。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く5裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の蜜腺溝が2個と黒紫色の斑点が多数あります。「曙草」の名は、花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立ててつけられたとされています。



カリガネソウ(シソ科)

山地や林縁に生える草丈1m程の多年草です。不快な臭いを出すので近くに行くだけで気づきます。花は下側の唇弁が大きく、4個の雄しべと雌しべは共に長く下向きに湾曲します。花の様子を冬の渡り鳥の雁(かり)の飛ぶ姿に例えたことが、名の由来です。



タムラソウ(キク科)

山地の草原などに多い多年草で、葉は互生して羽状に深裂します。枝先にアザミに似た花をたくさんつけます。葉もアザミに似ていますが、刺はなくやわらかい葉です。頭花は紅紫色で上向きにつき、総苞は鐘形で、花柱の先がふたつに割れて反り返る特徴があります。



シュウメイギク(キンポウゲ科)

庭に植えたり、人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品で中国では秋牡丹といわれていました。秋に菊によく似た花をつけることが名の由来です。しかし、本種は菊でも牡丹でもなく、英名の“ジャパニーズアネモネ”が示すとおり、秋咲きのアネモネそのものです。



台湾ホトトギス(ユリ科)

沖縄県西表島、台湾などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さ30~50cmになります。斑点が入る花を鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことが、名の由来です。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種は台湾ホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



センニチコウ(ヒユ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、熱帯地方原産の1年生草本です。茎の先に長い花茎を出し、その先に1個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色、まれに淡紅色、または白色があります。花が長持ちすることが、名の由来です。



ウメバチソウ(ニシキギ科)

山野の日当たりの良い湿地に生える多年草で、10~40cmの細い花茎を直立し、白色の5弁花を1個付けます。雄しべが5個、花粉を出さない仮雄しべ5個あり先が糸状に12~22裂しています。花茎に付く葉は柄がなく心形で花茎を抱えています。花の形が梅鉢の紋に似ていることが、名の由来です。



ヒガンバナ(ヒガンバナ科)

人里に近いところに群生する多年草です。ラッキョウ型の鱗茎が地下にあり、外皮は黒色です。秋の葉がない時に鱗茎から茎を1本出し、その先に有柄の花を輪状につけます。花被は6片で細長く外側に反り、へりは縮れています。雄しべ6本と雌しべが長く出て花被と同色です。秋の彼岸頃に花が咲くことが名の由来です。



エゾリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の草地などに生える多年草です。茎の中・上部の葉は対生、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の腋につけ、筒状鐘形で5裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で、主として茎頂のみに花をつけるものをエゾオヤマリンドウといいます。



リンドウ(リンドウ科)

秋の山を代表する多年草で、根茎は細く葉は緑色で、縁は細突起があってややざらつきます。茎の頂きまたは上部の葉のわきに青紫色の花を開きます。花は鐘状で5裂し、裂片の間にはさらに副裂片があります。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。根茎と根を乾燥したものが漢方の竜胆で、煎じて健胃剤とします。名は竜胆に由来します。